

令和元年度 宇部工業高等専門学校自己点検・評価結果

1 評価

評価の概要

宇部工業高等専門学校自己点検表基準1から基準10までの点検項目に従い、《S：特に優れている A：良好である B：適切である C：不十分である》の4段階で令和元年度自己点検の評価を実施した。

評価は概ね良好となっているが、一部、早急に改善の必要な項目があるため、これらについては次年度の実施計画に反映させることとする。

運営諮問会議における評価と意見

概ね良好であるとの評価であった。

ただし、関係者への意見聴取に関する項目について、次のとおり指摘があり、自己点検表の項目を修正した。

- ① 学生の表記について、「在校生」「学生」の2種類が混在している。
- ② 「学外意見聴取」の項目に学生を対象としたものが含まれている。

2 改善を要する点

改善を要する点

改善を要すると判断した点は以下のとおりである。

(基準1)

- ① 1-1 自己点検・評価の方針が関係法令に適合していない。
- ② 1-11,13,14 各種の意見聴取の結果が次年度計画に反映されていない。

(基準2)

- ③ 2-9 教育に関するFDが改善に結び付いているか確認できない。

(基準3)

- ④ 3-7,8 施設・設備に関する満足度調査が実施されていない。

(基準4)

- ⑤ 4-25 教員の学位及び業績が一部公開されていない。

(基準5)

- ⑥ 5-19,25 成績評価・単位認定及び卒業認定の基準について、学生の認知状況を学校として把握できていない。

(基準8)

- ⑦ 8-14,20 成績評価・単位認定及び修了認定の基準について、学生の認知状況を学校として把握できていない。

令和元年度 宇部工業高等専門学校自己点検表

基準 1

S：特に優れている A：良好である B：適切である C：不十分である

点検項目	実施計画	実績	評価
教育の内部質保証システム			
【内部質保証】			
1-1 自己点検・評価の方針は関係法令に適合しているか。	関係法令を調査し、適合しているか確認する。	自己点検・評価の方針が学校教育法第109条に適合していない。	C
1-2 自己点検・評価の体制（委員会等）に不備はないか。	委員会等の構成を確認する。	教育に関するPDCAを機能させるため、教育改善部会を設置した。	A
1-3 自己点検・評価の基準や項目は適切であるか。	自己点検・評価基準及び項目の確認・改善を行う。	自己点検・評価項目の見直しを行った。	A
【自己点検・評価の実施】			
1-4 文書管理規則に従い、資料は適切に管理・保管されているか。	文書管理規則に従い、適切に管理・保管する。	（事務文書）各部署において適切に管理・保管を徹底している。	A
		（成績資料）教員居室に成績資料を保管するとともに、保管マニュアルに沿った一部の資料を成績資料保管室に保管した。	A
1-5 自己点検・評価を定期的実施し、その結果を公表しているか。	自己点検・評価を実施し、公表する。	本自己点検・評価が完了次第、速やかに公表する。	A
【学内意見聴取】			
1-6 自己点検・評価は教員の意見を反映しているか。	教員への意見聴取を実施し、自己点検・評価に反映する。	〔意聴〕年度末にアンケート（職務上の活動に関する自己申告書）により実施した。	A
1-7 自己点検・評価は事務職員の意見を反映しているか。	事務職員への意見聴取を実施し、自己点検・評価に反映する。	〔意聴〕事務部会議にて意見聴取を行った。	A
1-8 自己点検・評価は技術職員の意見を反映しているか。	技術職員への意見聴取を実施し、自己点検・評価に反映する。	〔意聴〕技術室会議にて意見聴取を行った。	A
1-9 自己点検・評価は学生の意見を反映しているか。	学生への意見聴取を実施し、自己点検・評価に反映する。	〔意聴〕各学期末に授業評価アンケートを実施した。	A
1-10 自己点検・評価は学生の授業評価の結果を踏まえて行っているか。	学生の授業評価の結果を自己点検・評価に反映する。	〔意聴〕授業評価アンケートを実施した。	A
		〔反映〕各教員の授業改善報告書には反映されているものの、学校としての自己点検・評価には反映できていない。	B
1-11 自己点検・評価は学生の教育・学習の達成度を踏まえて行っているか。	学生の教育・学習の達成度を自己点検・評価に反映する。	〔意聴〕学生による学修の自己点検を実施した。	A
		〔反映〕収集した意見が反映されていない。	C
1-12 自己点検・評価は学生の学習環境を踏まえて行っているか。	次回は令和4年度に実施予定である。	〔意聴〕――	―
		〔反映〕――	―
1-13 自己点検・評価は学生の満足度を踏まえて行っているか。	学生の満足度を自己点検・評価に反映する。	〔意聴〕授業評価アンケートにより実施した。	A
		〔反映〕収集した意見が反映されていない。	C

【学外意見聴取】				
1-14	自己点検・評価に際し、保護者の意見を反映しているか。	保護者への意見聴取を実施し、自己点検・評価に反映する。	〔意聴〕 保護者会及び学寮保護者会により意見聴取を行った。	A
			〔反映〕 収集した意見が反映されていない。	C
1-15	自己点検・評価に際し、卒業生の意見を反映しているか。	次回は令和4年度に実施予定である。	〔意聴〕 ----	—
			〔反映〕 ----	—
1-16	自己点検・評価に際し、就職先企業の意見を反映しているか。	次回は令和4年度に実施予定である。	〔意聴〕 ----	—
			〔反映〕 ----	—
1-17	自己点検・評価に際し、進学先教育機関の意見を反映しているか。	次回は令和4年度に実施予定である。	〔意聴〕 ----	—
			〔反映〕 ----	—
1-18	自己点検・評価は卒業生・修了生の学習成果の効果を踏まえて行っているか。	次回は令和4年度に実施予定である。	〔意聴〕 ----	—
			〔反映〕 ----	—
1-19	自己点検・評価は就職先・進学先における学習成果の効果を踏まえて行っているか。	次回は令和4年度に実施予定である。	〔意聴〕 ----	—
			〔反映〕 ----	—
1-20	自己点検・評価結果を改善に結び付ける体制となっているか。	各委員会が自己点検・評価結果を改善に結び付けることができる体制となっているか確認する。	各種の意見聴取は行っているものの、それを自己点検・評価に反映させる体制が十分機能しておらず、改善に結び付いた例が少ない。	B
1-21	前回機関別認証評価における「改善を要する点」に対する取り組みを継続しているか。	前回機関別認証評価における「改善を要する点」に対する取り組みを継続する。	継続できている。	A
1-22	運営諮問会議における指摘・コメントに対する対応を行っているか。	運営諮問会議において意見を聴取し、その課題に対する改善を行う。	〔意聴〕 運営諮問会議を1月9日に開催した。	A
			〔改善〕 学修単位科目が増加したことを受け、コンパクトな授業を実施するための取り組みを行っていく（次年度に反映）。	—
【3つの方針】				
1-23	学習・教育目標は適切であるか。	学習・教育目標は適切であるか議論する。	定期的に議論する仕組みが整っていない（必要に応じて議論している）。	B
1-24	ディプロマポリシー（DP）は適切であるか。	DPが適切であるか議論する。	定期的に議論する仕組みが整っていない（必要に応じて議論している）。	B
1-25	カリキュラムポリシー（CP）は適切であるか。	CPが適切であるか議論する。	経営情報学科のCPを改正した。	A
1-26	アドミッションポリシー（AP）は適切であるか。	APが適切であるか議論する。	経営情報学科のAPを改正した。	A

〔意聴〕 = 意見聴取, 〔反映〕 = 点検・評価への反映

基準 2

S：特に優れている A：良好である B：適切である C：不十分である

点検項目	実施計画	実績	評価
教育組織及び教員・教育支援者等			
【教育に係る組織の体制】			
2-1 学科・専攻の構成は適切であるか。	学科・専攻科の構成が適切であるか審議する。	議論する仕組みが整っていない（必要に応じて議論している）。	B
2-2 教育活動を展開するための体制が適切に機能しているか。	教育活動を展開するための体制が適切に機能しているか審議する。	各種委員会は定期的に実施されている。	A
【教員】			
2-3 一般科目の教員配置は適切であるか。	一般科目の教員配置が適切であるか検証する。	適切である。なお、3月17日に組織検討・運営委員会において、将来の運営方針と教員人員枠の再配分の整合性を検討している。	A
2-4 専門科目の教員配置は適切であるか。	専門科目の教員配置が適切であるか検証する。	機械工学科で不足しており、公募を行ったが、充足できていない。なお、3月17日に組織検討・運営委員会において、将来の運営方針と教員人員枠の再配分の整合性を検討している。	B
2-5 教員の採用は公募により適切に行われているか。	公募により教員の採用を行う。	公募により、経営情報学科1名、一般科（英語）1名の計2名を採用した。	A
2-6 教員の昇任は適切に行われているか。	教員の昇任を適切に行う。	3名（教授1名、准教授2名）の昇任人事を行った。	A
2-7 教員の評価は適切に行われているか。	教員の評価を実施する。	教員表彰規則に基づき、2名を表彰した。	A
2-8 教育方法に関するFDが実施されているか。	教育方法に関するFDを実施する。	1月にFD「卒業時の質保証」を開催した。	A
2-9 FDが教育の改善に結び付いているか。	FDにより教育が改善されているか調査する。	調査を実施していない。	C
【教育支援者】			
2-10 教育支援者（事務職員、技術職員、図書館職員）の配置は適切であるか。	教育支援者の配置が適切であるか検証する。	適切であると判断する。	A
2-11 教育支援者に対するSDが実施されているか。	学内SDを実施する。また、高専機構等主催のSDに参加する。	学内研修参加者21名、学外研修参加者10名であった。	A

基準3

S：特に優れている A：良好である B：適切である C：不十分である

点検項目	実施計画	実績	評価
学習環境及び学生支援等			
【施設・設備】			
3-1 校地面積は適切であるか。	校地面積が適切であるか検証する。	法令に適合している。	A
3-2 校舎面積は適切であるか。	校舎面積が適切であるか検証する。	法令に適合している。	A
3-3 実習工場は適切に整備されているか。	機械工作実習に必要な設備・機材を整備・準備する。	整備できている。	A
3-4 各実験室は適切に整備されているか。	実験に必要な設備・機材を整備・準備する。	整備できている。	A
3-5 各施設・設備の安全衛生管理体制は機能しているか。	定期的に安全衛生委員会を開催する。	毎月、安全衛生委員会を実施している。	A
3-6 バリアフリー化への配慮を継続的に行っているか。	バリアフリー化への配慮を継続する。	視覚障がい者に配慮した点字ブロック設置等を勧めた。	A
3-7 施設・設備に関する満足度を調査しているか。	施設・設備に対する満足度を調査する。	アンケート調査が実施できていない。	C
3-8 施設・設備の満足度を向上するための改善を行っているか。	満足度を向上するための改善を行う。	アンケート調査が実施できていないため、アンケート結果に基づく改善は実施できていない。	C
【ICT環境】			
3-9 ICT環境の整備は適切であるか。	ICT環境を適切に整備する。	情報処理センターにより適切に整備され、教職員及び学生は快適に使用できている。	A
3-10 ICT環境のセキュリティ管理体制は適切に機能しているか。	情報セキュリティ管理を徹底する。	11月開催の情報セキュリティ推進委員会において、前回監査の指摘事項に対する対応を検討している。また、5月21日に教職員向けのFDを開催している。	A
3-11 ICT環境は有効に活用されているか。	ICT環境を有効利用する。	ほとんどの学科、学年において情報処理センターが管理する演習室（計算機室）が利用されている。	A
3-12 ICT環境に対する満足度を調査しているか。	ICT環境の満足度調査を実施する。	実験・実習、演習に関するアンケートを実施し、機器の整備状況については高い満足度が得られている。	A
【図書館】			
3-13 図書、学術雑誌、視聴覚資料等が系統的に収集・整理されているか。	図書等を適切に管理するとともに、新規図書等を適切に収集する。	各学科により選定した図書を購入した。	A
3-14 図書、学術雑誌、視聴覚資料等が有効に活用されているか。	図書等の利用状況を調査する。	来館者数はのべ30,283人であり、有効に活用されていると判断できる。	A
3-15 図書、学術雑誌、視聴覚資料等が有効に活用されるための取り組みを行っているか。	図書等の利用を促進する取り組みを実施する。	図書館HPに新着案内や特集を掲載するとともに、図書館だよりを発行している。	A

【ガイダンス】				
3-16	準学士課程の学生に対する教育上のガイダンスを実施しているか。	準学士課程の学生に対する教育上のガイダンスを実施する。	新入生オリエンテーションを実施している。	A
3-17	専攻科の学生に対する教育上のガイダンスを実施しているか。	専攻科の学生に対する教育上のガイダンスを実施する。	各学期の初めにオリエンテーションを実施している。	A
3-18	編入生に対する教育上のガイダンスを実施しているか。	編入生に対する教育上のガイダンスを実施する。	入学前の夏季学習指導を実施するとともに、入学後、担任による履修指導等を実施している。	A
3-19	留学生に対する教育上のガイダンスを実施しているか。	留学生に対する教育上のガイダンスを実施する。	留学交流室及び担任によるガイダンスを実施している。	A
3-20	障害のある学生に対する教育上のガイダンスを実施しているか。	障害のある学生に対する教育上のガイダンスを実施する。	修学支援室により学生及び保護者に対するガイダンスを実施している。	A
3-21	社会人学生に対する教育上のガイダンスを実施しているか。	社会人学生に対する教育上のガイダンスを実施する。	---	-
【学生のニーズ把握・支援】				
3-22	担任制・指導教員制は有効に機能しているか。	担任指導、指導教員による指導を行う。	留年率は全学年の平均で3.2%程度であり、適切な指導ができていると判断できる。	A
3-23	オフィスアワーは有効に機能しているか。	オフィスアワーを実施し、利用者数を把握する。	利用者の延べ人数は8,708名であることから、有効に機能していると判断できる。	A
3-24	保健室は有効に機能しているか。	利用者数を把握する。	利用者数は延べ752名であり、有効に機能していると判断できる。	A
3-25	相談室は有効に機能しているか。	利用者数を把握する。	利用者数は延べ257名であり、有効に機能していると判断できる。	A
3-26	キャリア相談室・資料室は有効に機能しているか。	利用者数を把握する。	利用者数は延べ284名であり、有効に機能していると判断できる。	A
3-27	(障害学生) 修学支援は有効に機能しているか。	利用者数を把握する。	修学支援室によりウオッチリストを作成し、学生の見守りを行っており、有効に機能していると判断できる。	A
3-28	学生への経済的支援(授業料免除、各種奨学金)は有効に機能しているか。	利用者数を把握する。	受給者は22名であり、有効に機能していると判断できる。	A
3-29	資格・検定試験支援制度は有効に機能しているか。	利用者数を把握する。	申請者は70名であり、有効に機能していると判断できる。	A
3-30	海外への留学支援は有効に機能しているか。	利用者数を把握する。	留学を希望する学生に対して説明会を実施している。	A
3-31	学生会あるいは学生との懇談会を実施しているか。	学生会との懇談会を実施する。	新学生会メンバーと学生部との懇談会を実施した。	A
【キャリア指導・支援】				
3-32	進路指導ガイダンスを実施しているか。	ジェネリックスキルにおいてキャリア教育を実施する。	ジェネリックスキル(新カリキュラム)及び技術者リテラシー(旧カリキュラム)において、キャリア教育を実施している。	A
3-33	進学・就職に関する説明会を実施しているか。	進学・就職に関する説明会を実施する。	大学説明会(6回)、企合同業研究会を実施している。	A

【課外活動】				
3-34	課外活動に対する支援は有効に機能しているか。	学生会を通じた活動費の配分や学外コーチの採用などの支援を行う。	学生会を通じた活動費の配分や学外コーチの採用などの支援を行った。	A
3-35	課外活動に対する責任体制は適切であるか。	責任体制を明確にするとともに、教員と学生に周知する。	各クラブに2～3人の顧問を配置するとともに、活動時間中は学生主事又は学生主事補が緊急対応ができる体制としている。	A
3-36	課外活動に対する責任体制は有効に機能しているか。	責任体制が有効に機能しているか検証する。	機能している。	A
【学生寮】				
3-37	学生寮は生活の場として有効に機能しているか。	生活の場として有効に機能しているか検証する。	機能している。	A
3-38	学生寮は勉学の場として有効に機能しているか。	勉学の場として有効に機能しているか検証する。	SMAPによる学び合いの会が実施されている。	A
3-39	学生寮の管理・運営体制は有効に機能しているか。	管理・運営体制が有効に機能しているか検証する。	機能している。	A

基準 4

S：特に優れている A：良好である B：適切である C：不十分である

点検項目	実施計画	実績	評価
財務基盤及び管理運営			
【財務】			
4-1 貸借対照表等による財務状態は適切であるか。	適切な会計処理を実施する。	適切である。	A
4-2 運営費交付金、授業料、入学料、検定料等の経常的な収入を確保しているか。	適切な会計処理を実施する。	確保できている。	A
4-3 収支状況が支出超過となっていないか。	適切な会計処理を実施する。	支出超過とはなっていない。	A
4-4 収支に係る方針、計画が適切なプロセスで決定されているか。	適切なプロセスで予算を決定する。	予算委員会により適切に決定されている。	A
4-5 収支に係る方針、計画は適切であるか。	予算計画が適切であるか検証する。	適切である。	A
4-6 収支に係る方針、計画は教職員に明示されているか。	予算計画を教職員に明示する。	サイボウズにより教職員に明示している。	A
4-7 収支に係る方針、計画と資源配分が整合しているか。	予算と資源配分の整合性を検証する。	整合している。	A
4-8 財務状況が法令に基づき適切に作成・公表されているか。	財務状況を作成し、公表する。	学校要覧により公表している。	A
4-9 財務に係る監査が適切に実施されているか。	適切な監査を実施する。	適切に実施している。	A
【管理運営】			
4-10 管理運営体制が有効に機能しているか。	管理運営体制が有効に機能しているか検証する。	機能している。	A
4-11 管理運営に係る委員会が有効に機能しているか。	管理運営に係る委員会が有効に機能しているか検証する。	毎週火曜日の組織・運営検討委員会及び月1回の運営委員会が実施されている。	A
4-12 校長、主事等の役割分担は適切であるか。	校長、主事等の役割分担が適切であるか検証する。	適切である。	A
4-13 教員と事務職員の役割分担は適切であるか。	教員と事務職員の役割分担が適切であるか検証する。	適切である。	A
4-14 教員と事務職員との連携体制が有効に機能しているか。	教員と事務職員の連携体制が有効に機能しているか検証する。	有効に機能している。	A
【危機管理】			
4-15 危機管理体制は有効に機能しているか。	危機管理体制が有効に機能しているか検証する。	有効に機能している。	A
4-16 危機管理マニュアルは適切であるか。	危機管理マニュアルの見直しを行う。	適切であると判断する。	A
4-17 危機に備えた訓練を実施しているか。	避難訓練を実施する。	準学士課程1～3年生を対象とした避難訓練を実施した。	A

【外部資金の活用】				
4-18	外部資金を獲得する取り組みを行っているか。	外部資金獲得のための講演会や説明会を実施する。	西日本KRAによる個別相談及び説明会を実施した。	A
4-19	公的資金が適切に管理されているか。	公的資金を適切に管理する。	適切に管理している。	A
4-20	公的資金を適切に使用するための取り組みが行われているか。	公的資金の不正使用防止のための研修を実施する。	全教職員を対象とした公的資金の適正使用に関する研修会を3月に実施している。	A
【外部教育資源の活用】				
4-21	外部の教育資源を有効に活用しているか。	外部教育資源を有効活用する。	工場見学、外部講師による講義、外部教育機関との協定締結などの実績を上げている。	A
【スタッフ・ディベロップメント】				
4-22	SDが適切に実施されているか。	学内SDを実施する。また、機構主催のSDに職員を派遣する。	学内研修に18名、学外研修に23名の事務職員が参加している。	A
【情報公開】				
4-23	法令に従い、学校の目的及び3つの方針が公表されているか。	学校の目的及び3つの方針をHPにより公開する。	HPに掲載している。	A
4-24	法令に従い、教育研究上の基本組織が公表されているか。	組織図をHPにより公開する	HPに掲載している。	A
4-25	法令に従い、教員組織、教員の数並びに教員が保有する学位及び業績が公表されているか。	教員組織、教員の数、学位、業績をHPにより公表する。	HPに公開しているが、教員の職位、学位及び業績が一部掲載されていない。	C
4-26	法令に従い、入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況が公表されているか。	各種データを学校要覧に記載する。	HPに掲載している。	A
4-27	法令に従い、授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画が公表されているか。	シラバス一覧、シラバス及び行事予定表をHPにより公開する。	HPに掲載している。	A
4-28	法令に従い、学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準が公表されているか。	成績評価基準、卒業・修了認定基準をHP（学則・教務規則）により公開する。	HPに掲載している。	A
4-29	法令に従い、校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境が公表されているか。	学校の施設・設備及び教育研究環境をHP（学校要覧）により公開する。	HPに掲載している。	A
4-30	法令に従い、授業料、入学料その他の高等専門学校が徴収する費用が公表されているか。	授業料、入学料その他の費用をHP（学校案内）により公開する。	HPに掲載している。	A
4-31	法令に従い、高等専門学校が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援が公表されているか。	修学支援室、キャリア支援室、学生相談室及び保健室等の支援体制をHP（学校要覧）により公開する。	HPに掲載している。	A
4-32	学校の目的及び3つの方針が教職員、学生に周知されているか。	学校の目的及び3つの方針を学内関係者に周知する。	HPに掲載している。	A

基準 5

S : 特に優れている A : 良好である B : 適切である C : 不十分である

点検項目	実施計画	実績	評価
準学士課程の教育課程・教育方法			
【教育課程の編成・内容・方法】			
5-1 カリキュラムポリシーに照らし、授業科目の配置は適切であるか。	授業科目の配置が適切あるか議論する。	議論していない（必要に応じて行っている）。	B
5-2 一般教育は充実しているか。	一般教育が充実しているか議論する。	議論していない（必要に応じて行っている）。	B
5-3 進級に関する規定は適切であるか。	進級に関する規定が適切であるか議論する。	議論していない（必要に応じて行っている）。	B
5-4 授業を行う期間は35週が確保されているか。	35週を確保する。	確保している。	A
5-5 特別活動は90単位時間以上確保されているか。	90単位時間以上確保する。	確保している。	A
5-6 学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等を踏まえた教育課程における配慮がなされているか。	学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請を踏まえ、教育課程における配慮を行う。	グローバル人材教育の一環として、英語による授業のまとめを推進している。	S
5-7 創造力を育む教育方法の工夫を行っているか。	創造力を育む教育方法の工夫を行う。	新2年生全員がプロジェクト学習を履修した。	A
5-8 実践力を育む教育方法の工夫を行っているか。	実践力を育む教育方法の工夫を行う。	178名（89％）の学生がインターンシップに参加した。	S
【授業形態・学習指導法】			
5-9 カリキュラムポリシーに照らして講義、演習、実験・実習が適切に配置されているか。	講義、演習、実験・実習の配置について議論する。	議論していない（必要に応じて行っている）。	B
5-10 教育内容に応じて学習指導上の工夫がなされているか。	学習指導上の工夫を行う。	アクティブラーニング、情報機器の活用など、多様な学習指導上の工夫がなされている。	A
5-11 シラバスが適切に作成されているか。	シラバスを適切に作成する。	シラバス作成マニュアルを配布した。	A
5-12 学生はシラバスを有効に活用しているか。	学生のシラバス活用状況を調査する。	授業評価アンケートによる調査結果より、有効に活用されていると判断できる。	A
5-13 教員はシラバスを有効に活用しているか。	教員のシラバス活用状況を調査する。	授業改善計画書により、各教員がシラバス活用に努めている。	A
5-14 シラバスは適切に改善されているか。	シラバスの改善状況を調査する。	教務よりシラバス更新の依頼をしている。改善状況の調査は行っていない。	A
5-15 学修単位科目における履修時間の実質化のための取り組みが適切に行われているか。	学修単位科目における履修時間の実質化のための取り組みを行う。	事前・事後学習の課題一覧を作成している。	A
5-16 学修単位科目における学生の授業外学習時間を把握しているか。	学修単位科目における授業外学習時間を把握する。	各教員が事前・事後学習の課題一覧に所要時間を記載し、合計時間が1単位当たり30時間となるように設計している。	A

【成績評価・単位認定・卒業認定】				
5-17	成績評価に関する基準に基づき、適切に成績評価が行われているか。	適切に成績評価を行う。	評価割合をシラバスに記載し、これに基づき評価を行っている。	A
5-18	単位認定に関する基準に基づき、適切に単位認定が行われているか。	適切に単位認定を行う。	進級認定会議を実施した。	A
5-19	成績評価・単位認定に関する基準に関する学生の認知状況を把握しているか。	成績評価基準及び単位認定基準に関する学生の認知状況を把握する。	成績評価に関しては授業評価アンケートにより把握できているが、単位認定の基準については把握していない。	C
5-20	試験後に答案を返却し、模範解答を示しているか。	試験後に答案を返却し、模範解答を示す。	答案返却及び模範解答の解説を行っている（ルール化されている）。	A
5-21	試験のレベルが適切であるかチェックがなされているか。	試験のレベルが適切であるか点検する。	学科内教育ネットワーク点検により確認している。	A
5-22	成績評価の事後チェックがなされているか。	成績評価の事後点検を行う。	進級認定会議を実施した。	A
5-23	複数年度にわたり同一試験問題が繰り返されていないかのチェックがなされているか。	複数年度にわたり同一試験問題が繰り返されていないか点検する。	学科内教育ネットワーク点検により確認している。	A
5-24	卒業認定基準を学生に周知しているか。	卒業認定基準を学生に周知する。	HPに教務規則を掲載することにより周知している。	A
5-25	卒業認定基準について、学生の認知状況を把握する取り組みがなされているか。	卒業認定基準の周知状況をアンケートにより調査する。	把握できていない。	C

基準6

S：特に優れている A：良好である B：適切である C：不十分である

点検項目	実施計画	実績	評価
準学士課程の学生の受け入れ			
【準学士課程の学生の受け入れ】			
6-1 アドミッションポリシーに沿った学力選抜試験が実施されているか。	APに沿った学力選抜試験を実施する。	学力選抜においては学力試験及び調査書に基づきAPに沿った評価法により選抜している。	A
6-2 アドミッションポリシーに沿った推薦選抜試験が実施されているか。	APに沿った推薦選抜試験を実施する。また、活動記録の評価項目の見直しを実施する。	推薦選抜試験においては、面接、推薦書及び調査書に基づきAPに沿った評価法により選抜している。	A
6-3 アドミッションポリシーに沿った帰国子女選抜試験が実施されているか。	APに沿った帰国子女選抜試験を実施する。	推薦選抜試験においては、面接、推薦書及び調査書に基づきAPに沿った評価法により選抜している。	A
6-4 入学した学生がアドミッションポリシーに沿っているかの検証がなされているか。	入学生がAPに沿っているか検証する。特に、推薦選抜試験においては、活動記録と本校での成績との相関を分析する。	推薦選抜試験合格者に対する学習状況の調査を行い、入学生がAPに沿っているか検証した。	A
6-5 検証した結果が改善に役立てられているか。	検証結果をもとに次年度の実施計画における改善計画を策定する。	学力試験の傾斜配点に関する議論がなされたが、時期尚早との結論に至った。	A
6-6 入学定員に対し、入学者数は適切であるか。	入学定員に対する入学者数を調査する。	適切である。	A
6-7 入学定員に対し、入学者数が大幅に不足または超過した場合に、改善の取り組みがなされているか。	入学定員に対する入学者数に大きな過不足があった場合には、次年度の実施計画における改善計画を策定する。	---	-

基準 7

S：特に優れている A：良好である B：適切である C：不十分である

点検項目	実施計画	実績	評価
準学士課程の学習・教育の成果			
【準学士課程の学習・教育の成果】			
7-1 成績評価・卒業認定の結果から学習・教育の成果が認められるか。	卒業及び進級認定会議を実施する。	それぞれ3月6日及び3月13日に実施している。	A
7-2 卒業時の意見聴取の結果から学習・教育の成果が認められるか。	卒業時に学生へのアンケート調査を行う。	アンケートを実施し、集計結果を公表しているが、改善に反映されていない。	B
7-3 卒業生からの意見聴取の結果から学習・教育の成果が認められるか。	次回は令和4年度に実施予定である。	次回は令和4年度に実施予定である。	—
7-4 就職先からの意見聴取の結果から学習・教育の成果が認められるか。	次回は令和4年度に実施予定である。	次回は令和4年度に実施予定である。	—
7-5 進学先からの意見聴取の結果から学習・教育の成果が認められるか。	次回は令和4年度に実施予定である。	次回は令和4年度に実施予定である。	—
7-6 就職率から学習・教育の成果が認められるか。	就職率を算出する。	就職率は100%となっている。	A
7-7 進学率から学習・教育の成果が認められるか。	進学率を算出する。	進学率は100%となっている。	A
7-8 就職先、進学先は学科が養成しようとする人材像に適したものととなっているか。	各学科のDPと就職先及び進学先との整合性について検証する。	ほとんどの卒業生の進路が各学科のDPと整合した就職先及び進学先となっている。	A

基準 8

S : 特に優れている A : 良好である B : 適切である C : 不十分である

点検項目	実施計画	実績	評価
専攻科課程の教育活動			
【教育課程の編成・内容・方法】			
8-1 カリキュラムポリシーに照らし、適切な授業配置となっているか。	授業科目の配置が適切あるか議論する。	議論していない（必要に応じて行っている）。	B
8-2 専攻科の教育課程は準学士課程の教育と連携し、発展した構成となっているか。	専攻科の教育課程が準学士課程の教育と連携し、発展した構成となっているか審議する。	議論していない（必要に応じて行っている）。	B
【授業形態・学習指導法】			
8-3 カリキュラムポリシーに照らして講義、演習、実験・実習が適切に配置されているか。	授業科目の配置が適切であるか議論する。	議論していない（必要に応じて行っている）。	B
8-4 教育内容に応じて学習指導上の工夫がなされているか。	学習指導上の工夫を行う。	アクティブラーニング、情報機器の活用など、多様な学習指導上の工夫がなされている。	A
8-5 学生への教養教育や研究指導が適切に行なわれているか。	教養教育や研究指導を適切に行う。	特別研究に関して年4回のレポートを提出させ、指導教員が確認及び指導を行っている。	A
8-6 シラバスが適切に作成されているか。	シラバスを適切に作成する。	シラバス作成マニュアルを配布した。	A
8-7 学生はシラバスを有効に活用しているか。	学生のシラバス活用状況を調査する。	授業評価アンケートによる調査結果より、有効に活用されていると判断できる。	A
8-8 教員はシラバスを有効に活用しているか。	教員のシラバス活用状況を調査する。	授業改善計画書により、各教員がシラバス活用に努めている。	A
8-9 シラバスは適切に改善されているか。	シラバスの改善状況を調査する。	教務よりシラバス更新の依頼をしている。改善状況の調査は行っていない。	A
8-10 学修単位科目における履修時間の実質化のための取り組みが適切に行われているか。	学修単位科目における履修時間の実質化のための取り組みを行う。	事前・事後学習の課題一覧を作成している。	A
8-11 学修単位科目における学生の授業外学習時間を把握しているか。	学修単位科目における授業外学習時間を把握する。	各教員が事前・事後学習の課題一覧に所要時間を記載し、合計時間が1単位当たり30時間となるように設計している。	A

【成績評価・単位認定・卒業認定】				
8-12	成績評価に関する基準に基づき、適切に成績評価が行われているか。	適切に成績評価を行う。	評価割合をシラバスに記載し、これに基づき評価を行っている。	A
8-13	単位認定に関する基準に基づき、適切に単位認定が行われているか。	適切に単位認定を行う。	進級認定会議を実施した。	A
8-14	成績評価・単位認定に関する基準に関する学生の認知状況を把握しているか。	成績評価基準及び単位認定基準に関する学生の認知状況を把握する。	成績評価に関しては授業評価アンケートにより把握できているが、単位認定の基準については把握していない。	C
8-15	試験後に答案を返却し、模範解答を示しているか。	試験後に答案を返却し、模範解答を示す。	答案返却及び模範解答の解説を行っている（ルール化されている）。	A
8-16	試験のレベルが適切であるかチェックがなされているか。	試験のレベルが適切であるか点検する。	学科内教育ネットワーク点検により確認している。	A
8-17	成績評価の事後チェックがなされているか。	成績評価の事後点検を行う。	進級認定会議を実施した。	A
8-18	複数年度にわたり同一試験問題が繰り返されていないかのチェックがなされているか。	複数年度にわたり同一試験問題が繰り返されていないか点検する。	学科内教育ネットワーク点検により確認している。	A
8-19	修了認定基準を学生に周知しているか。	修了認定基準を学生に周知する。	HPに教務規則を掲載することにより周知している。	A
8-20	修了認定基準について、学生の認知状況を把握する取り組みがなされているか。	修了認定基準に関する学生の認知状況を把握する。	把握できていない。	C
【準学士課程の学生の受け入れ】				
8-21	アドミッションポリシーに沿った学力選抜試験が実施されているか。	APに沿った学力選抜試験を実施する。	学力選抜においては学力試験及び調査書に基づきAPに沿った評価法により選抜している。	A
8-22	アドミッションポリシーに沿った推薦選抜試験が実施されているか。	APに沿った推薦選抜試験を実施する。	推薦選抜試験においては、面接、推薦書及び調査書に基づきAPに沿った評価法により選抜している。	A
8-23	アドミッションポリシーに沿った社会人選抜試験が実施されているか。	APに沿った帰国子女選抜試験を実施する。	推帰国子女選抜試験においては、面接、推薦書及び調査書に基づきAPに沿った評価法により選抜している。	A
8-24	入学した学生がアドミッションポリシーに沿っているかの検証がなされているか。	入学生がAPに沿っているか検証する。	推薦選抜試験合格者に対する学習状況の調査を行い、入学生がAPに沿っているか検証した。	A
8-25	検証した結果が改善に役立てられているか。	検証結果をもとに次年度の実施計画における改善計画を策定する。	学力試験の傾斜配点に関する議論がなされたが、時期尚早との結論に至った。	A
8-26	入学定員に対し、入学者数は適切であるか。	入学定員に対する入学者数を調査する。	生産システム工学科において定員を大幅に超過しているが、適切な教育を実施できる範囲であり、申し合わせで定めた上限を超えてはいない。	B
8-27	入学定員に対し、入学者数が大幅に不足または超過した場合に、改善の取り組みがなされているか。	入学定員に対する入学者数に大きな過不足があった場合には、次年度の実施計画における改善計画を策定する。	入学者数の適正化に関する議論を行った。	B

【準学士課程の学習・教育の成果】				
8-28	成績評価・修了認定の結果から学習・教育の成果が認められるか。	修了認定会議を実施する。	2月21日に実施している。	A
8-29	修了時の意見聴取の結果から学習・教育の成果が認められるか。	修了時に学生へのアンケート調査を行う。	アンケートを実施し、集計結果を公表しているが、改善に反映されていない。	B
8-30	修了生からの意見聴取の結果から学習・教育の成果が認められるか。	次回は令和4年度に実施予定である。	次回は令和4年度に実施予定である。	—
8-31	就職先からの意見聴取の結果から学習・教育の成果が認められるか。	次回は令和4年度に実施予定である。	次回は令和4年度に実施予定である。	—
8-32	進学先からの意見聴取の結果から学習・教育の成果が認められるか。	次回は令和4年度に実施予定である。	次回は令和4年度に実施予定である。	—
8-33	就職率から学習・教育の成果が認められるか。	就職率を算出する。	就職率は100%となっている。	A
8-34	進学率から学習・教育の成果が認められるか。	進学率を算出する。	進学率は100%となっている。	A
8-35	就職先、進学先は専攻が養成しようとする人材像に適したものととなっているか。	各専攻のDPと就職先及び進学先との整合性について検証する。	ほとんどの修了生の進路が各学科のDPと整合した就職先及び進学先となっている。	A

基準9

S：特に優れている A：良好である B：適切である C：不十分である

点検項目	実施計画	実績	評価
研究活動の状況			
【研究活動の体制】			
9-1 研究活動の目的、方針は適切であるか。	本校の研究活動の目的及び方針を定める。	審議されていない（必要に応じて審議している）。	B
9-2 研究活動の目的を達成するための体制は有効に機能しているか。	研究活動の目的に沿った体制となっているか審議する。	審議されていない（必要に応じて審議している）。	B
【研究活動の状況】			
9-3 研究活動が十分に行われているか。	研究活動の状況を把握する。	査読付き論文27件、外部資金62百万円獲得などの成果が得られている。	A
【研究活動の成果】			
9-4 目的、方針に沿った研究活動の成果が得られているか。	本校の目的に沿った研究成果であるか確認する。また、成果は地域共同テクノセンターNews&Reportsに集約し、公表する。	本校の研究活動の目的に沿った成果を地域共同テクノセンターNews&Reportに集約し、冊子を発刊した。	A

基準10

S：特に優れている A：良好である B：適切である C：不十分である

点検項目	実施計画	実績	評価
地域貢献活動等の状況			
【地域貢献活動の体制】			
10-1 地域貢献活動の目的、方針は適切であるか。	地域貢献活動の目的及び方針について審議する。	審議されていない（必要に応じて審議している）。	B
10-2 地域貢献活動の目的を達成するための体制は有効に機能しているか。	地域貢献活動の目的に沿った体制となっているか審議する。	審議されていない（必要に応じて審議している）。	B
【地域貢献活動の状況】			
10-3 地域貢献活動は十分に行われているか。	地域貢献活動の状況を把握する。	出前授業23件、公開講座2件、市民文化サロン2回などを実施している。	A
【地域貢献活動の成果】			
10-4 目的、方針に沿った地域貢献活動の成果が得られているか。	本校の目的に沿った地域貢献活動の成果であるか確認する。また、成果は地域共同テクノセンターNews&Reportsに集約し、公表する。	本校の地域貢献活動の目的に沿った成果を地域共同テクノセンターNews&Reportに集約し、冊子を発刊した。	A